

「ドイツのクラブを見て、日本のクラブの未来像を考える」

はじめに

私のクラブは設立6年が経過し、そして私はクラブアドバイザーとしてクラブに携わっている。

これから10年先に経営的に安定し、地域に根ざした活動をするクラブを作っていくために今回ドイツ研修に参加させていただいた。そのドイツのスポーツクラブは100年以上の歴史があり、その長い歴史の中でシステムも確立されている。その中でどのような現状と課題があり未来の展望を知り、今後の運営に生かすとともに日本独自のクラブ像を描き、行政と協働していくにはどのように考えていかなければならないかを模索する研修となった。

研修を通じて

ドイツでは、ライン・ノイス郡スポーツ課のアクセルベッカー氏が帯同されドイツのスポーツ振興政策やクラブに関する歴史や現状・課題についてお話頂いた。

印象に残っているのは、ドイツのほとんどの人々が日々の生活の中で様々な目的（健康増進、体力向上、フィットネスなど）でスポーツ・運動を楽しんでおり、生活の一部になっているところである。そしてスポーツクラブは自由意志で運営している。自由意志とは、クラブは自分たちのために必要なものならば、自分たちが努力していくということである。

そうした中で「ボランティア精神」という概念が浸透し、スポーツ文化として定着していると思った。

もちろんドイツにも少子高齢化、基礎学校の全日制への移行、社会情勢の変化にともない様々な問題があるが、行政や関係機関が地域住民の健康づくりのためにそれぞれが上記の問題を共有している。

そして問題解決に向けた政策やクラブネットワーク構築が出来ており、組織が連携して取り組める体制になっていることに感心させられた。

行政とクラブの今後

今後、我が国の行政は総合型地域スポーツクラブと協働、連携することにより、より良いパートナーシップを築き、公共の役割を総合型地域スポーツクラブが十分に果たすことで地域に根ざす活動をしていくことが大切だと思った。

ただ、ドイツのクラブを参考にしながらも日本の風土や各地域の特性や実情にあったクラブを運営していき、日本型のスポーツクラブをつくり、100年、200年後も愛され発展し続けるクラブを目指していくことが必要だと実感した。

今回の研修を通じて、自分の五感でドイツのスポーツシステムやクラブシステムを感じてきたことで、私のクラブに活用できる日本型クラブシステムの新しいヒントを学べたことに感謝します。

（城野和則 南関すこやかスポーツクラブ クラブアドバイザー）



【クラブハウス (オルケン体操クラブ)】



【クラブの活動風景 (サッカーを楽しむ子ども達)】



【講義風景 (アクセル ベッカー氏)】

【南関すこやかスポーツクラブ プロフィール】

1. 設立年月：平成17年1月
経緯：スポーツを通じて、仲間とともに健康で生きがいにあふれた、豊かな生活の実現と、将来を担う健康でたくましい子どもたちの育成を図り、地域に根差した活動をスタート。
現在設立6年
2. 地域：熊本県玉名郡南関町
地区人口：10,855人
地域特性：熊本県の北西にある山々に囲まれた自然あふれる県境の町です。
昔は関所、今は九州縦貫高速自動車道の南関インターチェンジを有し、
県北の玄関口として発展しています。
3. クラブ会員数：435名 (平成23年11月現在)
特徴：26種目で活動しており年間を通じて活発な活動を行っており、行政と連携協力し、
福祉部局の介護予防事業の運動教室を委託され各集会所に出向き高齢者の元気づくり
や地域のリーダー育成に取り組んでいる。
予算規模：1,500万円
4. 連絡先
住所：熊本県玉名郡南関町大字関町1324番地
南関町公民館内南関すこやかスポーツクラブ事務局
電話：0968-53-0007
FAX：0968-53-0071
メールアドレス：sukoyaka.club@ia1.itkeeper.ne.jp
URL：<http://n-sukoyaka-sportsclub.jp/>